

## 令和 5 年度地域公共交通確保維持事業（計画策定事業）の自己評価について

### 1 事業評価の目的

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価は、協議会が、生活交通確保維持改善計画に位置付けられた補助対象事業等について、事業の性質に応じ、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的とする。

### 2 事業評価の方法

#### (1) 自己評価（一次評価）

補助対象事業者が、事業の実施状況の確認、評価を行い、当該自己評価の結果を、補助金の交付を受けようとする会計年度の 1 月末までに、地方運輸局に報告するとともに、公表する。

#### (2) 二次評価

二次評価は一次評価等を基に地方運輸局が作成した二次評価案等について、地方運輸局に設置した各担当部長及び学識経験者等の有識者からなる第三者評価委員会において審議し、補助対象事業者に対して当該二次評価を通知する。

### 3 自己評価の評価項目

計画等の策定に係る事業が適切に実施され、計画等の策定につながるものとなっているか、調査結果を整理し評価する。適切に実施されなかった場合には、理由等を明らかにする。さらに、地域公共交通計画の計画等の策定に向けた方針も明らかにする。

※これらの項目に係る資料が、「議題 3」の資料一式になります。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和6年1月18日

協議会名： 盛岡都市圏地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
<p><b>【事業内容】</b>                      ○地域公共交通の現状整理                      ○利用者ニーズの把握                      ○移動特性の分析による課題抽出                      ○基本方針及び目標(素案)の検討                      ○具体施策の方向性検討                      ○法定協議会開催</p> <p><b>【結果概要】</b>                      ○岩手県ビッグデータ活用事業における取得データ及び交通事業者提供のデータより、路線・系統毎の公共交通の状況を整理した。                      ○現状の公共交通ネットワークより、運行本数等のサービスレベルに応じた公共交通利用圏を整理した。                      ○アンケート調査により、世代や移動目的に問わず、公共交通の運行本数・頻度に関する改善意向が大きいこと、公共交通への費用負担増加も前向きであること等を把握した。                      ○ヒアリング調査より、公共交通ネットワークが移動ニーズと乖離している状況や地域別の乗り継ぎ負担の傾向等を把握した。                      ○今後は、人流ビッグデータの詳細分析、住民代表者ヒアリング結果の整理、損保会社提供の移動実績データの分析を進め、移動特性の分析による課題抽出を進める。                      また、抽出された課題を踏まえ、基本方針及び目標、具体施策の方向性を交通事業者とともに調整し、検討する予定である。                      基本方針、施策実施の方向性等の決定にあたり、法定協議会を2回開催予定である。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●盛岡都市圏の郊外部を中心に、公共交通利用圏を満足するために細かな路線・系統が設定されているものの、日常的に利用可能な運行本数が確保されていないため、路線・系統の位置付けとともに、利用しやすく分かりやすい都市圏ネットワークの強化を図るルート・ダイヤ設定を検討する。</li> <li>●滝沢市を中心に幹線系統に連絡するフィーダー系統路線の設定により、市町内の移動手段の確保も検討する。なお、令和7年度確保維持事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいる。</li> <li>●旺盛な通勤・通学需要と多様な移動ニーズが存在する日常に移動需要への対応に主眼を置き、最適な交通モードとサービスレベルを検討する。</li> <li>●これまでの各市町実施の施策について、市町を跨いだ連携の可能性を検討するとともに、計画に方針の位置付けをするべく交通事業者との調整を図る。</li> </ul>

## 地域の概要

### 1. 基礎データ

盛岡都市圏(盛岡市、滝沢市、矢巾町)

人口：361,560人

(R5.12.31現在・住民基本台帳)

面積：1,136.25 平方キロメートル

過疎地域等指定：なし、

山村(旧玉山村藪川村)

高齢化率：28.8%

交通会議開催数：2回

(R5.4 ~ R5.12)

### 2. 公共交通の概況

#### 【乗合バス】

##### ①路線バス

運行：岩手県交通(株)、岩手県北自動車(株)、ジェイアールバス東北(株)

路線：120路線

##### ②コミュニティバス

運行：滝沢市(3路線)、矢巾町(2路線)

路線：5路線

#### 【鉄道】

運行：東日本旅客鉄道(株)、IGRいわて銀河鉄道(株)

路線：在来線5路線、JR東北新幹線

#### 【乗合タクシー】

運行：タクシー事業者1社

エリア：矢巾町内

#### 【自家用有償旅客運送】

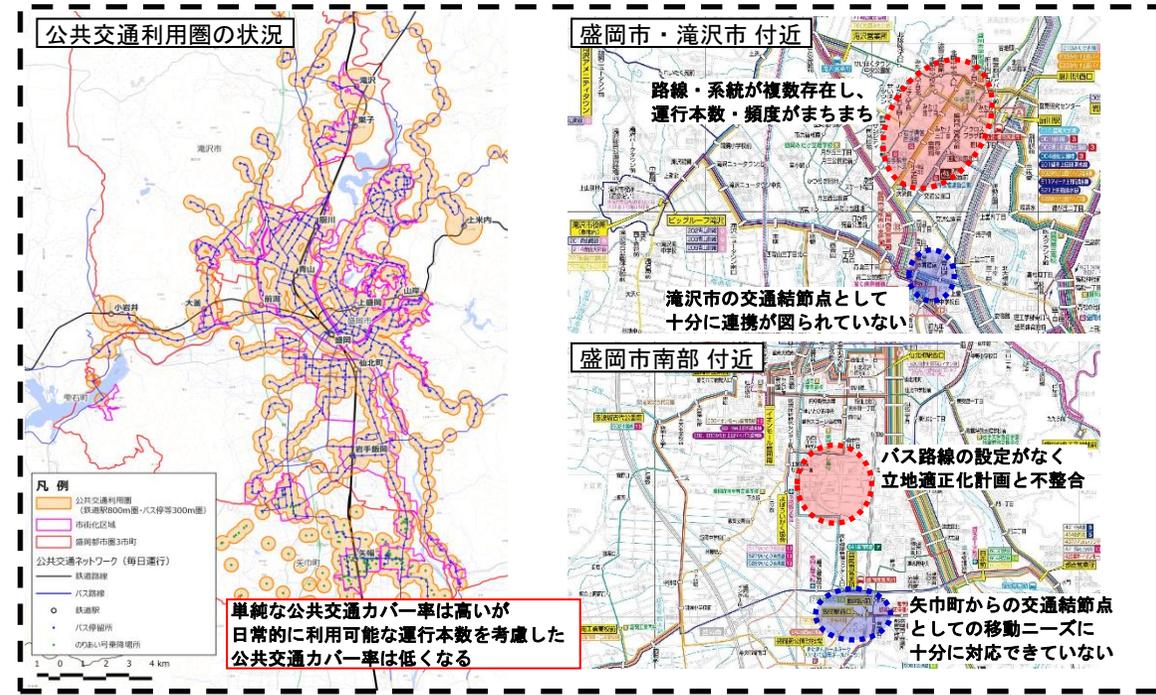
運行：なし

形態：-

エリア：-

### 3. 公共交通の問題点

- (1)人口減少、少子高齢化の進展による影響もあり、公共交通の利用者数が低迷している。
- (2)既存路線だけでは運行地域が限られるとともに、運行頻度も少なく、公共交通の充実した地域とは言えない現状であり、運行経路やダイヤの見直しだけでは、公共交通の充実に関して根本的な改善を図ることが難しい状況である。
- (3)盛岡市、滝沢市、矢巾町の3市町では、盛岡広域都市計画区域を形成し、広域でのまちづくりを行っているが、公共交通に関しては各市町で個別に計画されていることから、行政区域内のみの取組であり行政区域を跨ぐ移動実態との乖離がある。
- (4)行政区域を超えたニーズ等を把握したうえで課題を整理し、まちづくりとも連携した持続可能な公共交通の再構築が必要である。
- (5)令和5年度に策定予定の「岩手県地域公共交通計画」と整合を図るため、県計画に位置づける幹線系統などを含めた交通網との調整・整理を行う必要がある。



# 盛岡都市圏地域公共交通会議

## 調査内容

### 【事業評価時点で完了している内容】

1. 地域公共交通の現状整理
  - (1) 地域概況の整理
  - (2) 上位・関連計画・まちづくりの整理
  - (3) 利用状況・収支状況の整理
  - (4) 公共交通利用圏の整理
2. 利用者ニーズの把握
  - (1) 住民アンケート調査
  - (2) 学生アンケート調査
  - (3) 観光客WEBアンケート調査
6. 法定協議会開催(1回実施)

### 【今後予定している内容】

2. 利用者ニーズの把握
  - (4) 盛岡都市圏の移動傾向の分析
  - (5) 住民代表者ヒアリング調査
3. 移動特性の分析による課題抽出
4. 基本方針及び目標(素案)の検討
5. 具体施策の方向性検討
6. 法定協議会開催  
(令和5年度実施分残り2回)

## 調査結果概要

### 1. (1) 地域概況の整理

- 盛岡都市圏は、教育・医療・商業等の地域拠点が各所に形成されており行政区域を相互に跨ぐ移動が多い。

### 1. (2) 上位・関連計画・まちづくりの整理

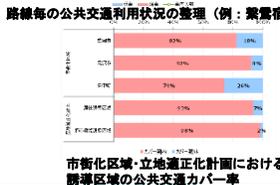
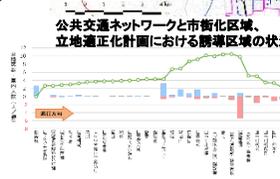
- 盛岡市、滝沢市、矢巾町は、広域都市計画区域を設定しており、盛岡市を中心として、コンパクト・プラス・ネットワークの都市計画が成されている
- 盛岡市立地適正化計画における誘導区域を市街化区域に対し、厳しく設定している。

### 1. (3) 利用状況・収支状況の整理

- 学校施設、商業施設等の集客のある施設を中心に、利用状況が顕著に変化する。
- 平均乗車密度は、国庫路線平均で3.8人、県単補助路線平均で2.3人と厳しい状況にある。

### 1. (4) 公共交通利用圏の整理

- 市街化区域内の9割を公共交通がカバーしているものの、運行本数が極めて少ない路線が多く、日常利用が難しい箇所がある。

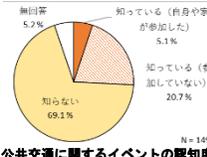


### 2. (1) 住民アンケート調査結果(2,500票配布、有効1,494票)

- 盛岡都市圏における移動実態や公共交通の課題、持続可能な公共交通の実現に向けた施策展開の検討のために実施した。

#### 【公共交通の改善点】

- 通勤通学時のバス利用については、
- 定時性に対して特に改善を求めている。
- 世代・公共交通利用の有無に関わらず、
- 運行本数や間隔の改善を求める声が多い。



#### 【利用意向に関する実態】

- 公共交通のイベントの認知度が極めて低く、公共交通に関心のある家庭も約4割に留まる。
- サービス改善後の利用意向や公共交通への財政負担については、半数以上の方が利用や負担に前向きな傾向である。

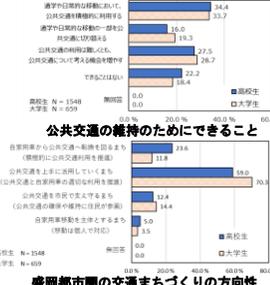
### 2. (2) 学生アンケート調査結果

(有効票 高校生:1,548票、大学生:659票)

- 主要な公共交通利用者の移動実態や公共交通の課題、交通まちづくりへの意向を把握するために、盛岡都市圏の公立高校10校(対象2年生)と主要大学4校を対象に実施した。

#### 【交通まちづくりへの意向】

- 公共交通のためには、公共交通の積極利用や公共交通への関心が各3割である一方、
- 公共交通の維持のためにできること
- できることはないとの回答も2割に及んでいる。
- 将来の盛岡都市圏について、公共交通と自家用車を適切に活用できるまちを望んでいる。



＜公共交通に関する課題等(案)＞  
 【公共交通ネットワークの課題】 効率的な都市構造の実現や交通不便地域の改善のため、路線の位置付けの明確化や交通モードの連携が必要である。  
 【公共交通サービスの課題】 誰もが快適かつ安定して移動できるように、限られた輸送資源を適切に活用した交通サービスへの転換が必要である。  
 【施策実施の課題】 盛岡都市圏の各市町の得意分野やノウハウを活かすとともに、多様な関係者と連携が図られた公共交通の実現が必要である。  
 【住民意識・参画の課題】 持続可能な公共交通の実現に向け、公共交通の認知・理解度を向上し、公共交通への関心や積極的な参画を促す必要がある。

## 今後の取組みについて

### 【スケジュール(予定)】

- 2月中旬まで  
利用者ニーズの把握、移動特性の分析による課題抽出、基本方針及び目標(素案)の検討
- 2月上旬  
第3回公共交通会議開催
- 3月下旬  
第4回公共交通会議開催、具体施策の方向性検討

### 【地域の交通の目指す姿】

これまで各市町が個別で進めていたネットワークの改善や事業を、移動需要に応じて盛岡都市圏として実施することにより、多様なニーズへの対応とまちづくりの支援を行う。  
 その上で必要となる地域公共交通確保維持改善事業の活用を検討する。